



プレゼン編

本書は、作成したプランのパース画像の作成と、プレゼンボードの作成方法について操作内容を解説したテキストです。

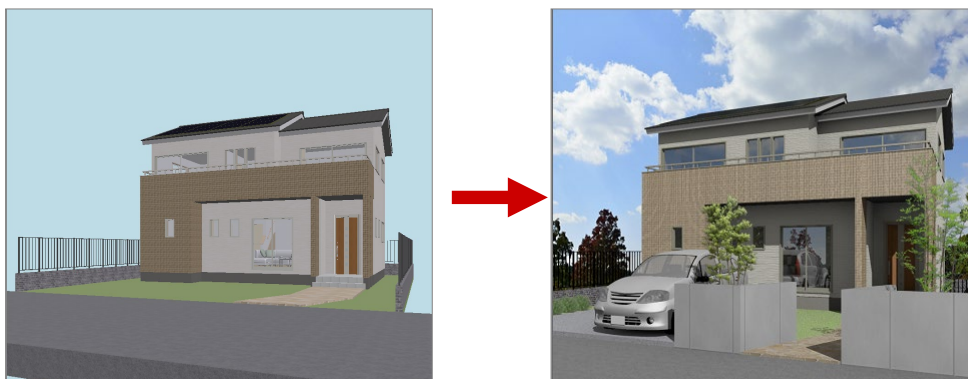
1. パース画像の作成	1
1-1 外構や照明部品の入力	1
1-2 背景や影の設定	6
1-3 視点の設定	7
1-4 レンダリングの実行	10
2. プレゼンボードの作成	13
完成図	13
2-1 画像の準備	13
2-2 プレゼンボードの新規作成	15
2-3 ボードの確認	16
2-4 プレゼン・カタログ画像の配置	18
2-5 カタログ画像の編集	19
2-6 ボードの編集	22
2-7 ボードの印刷	23

1

パース画像の作成

外構を入力して、外観のパース画像を作成しましょう。

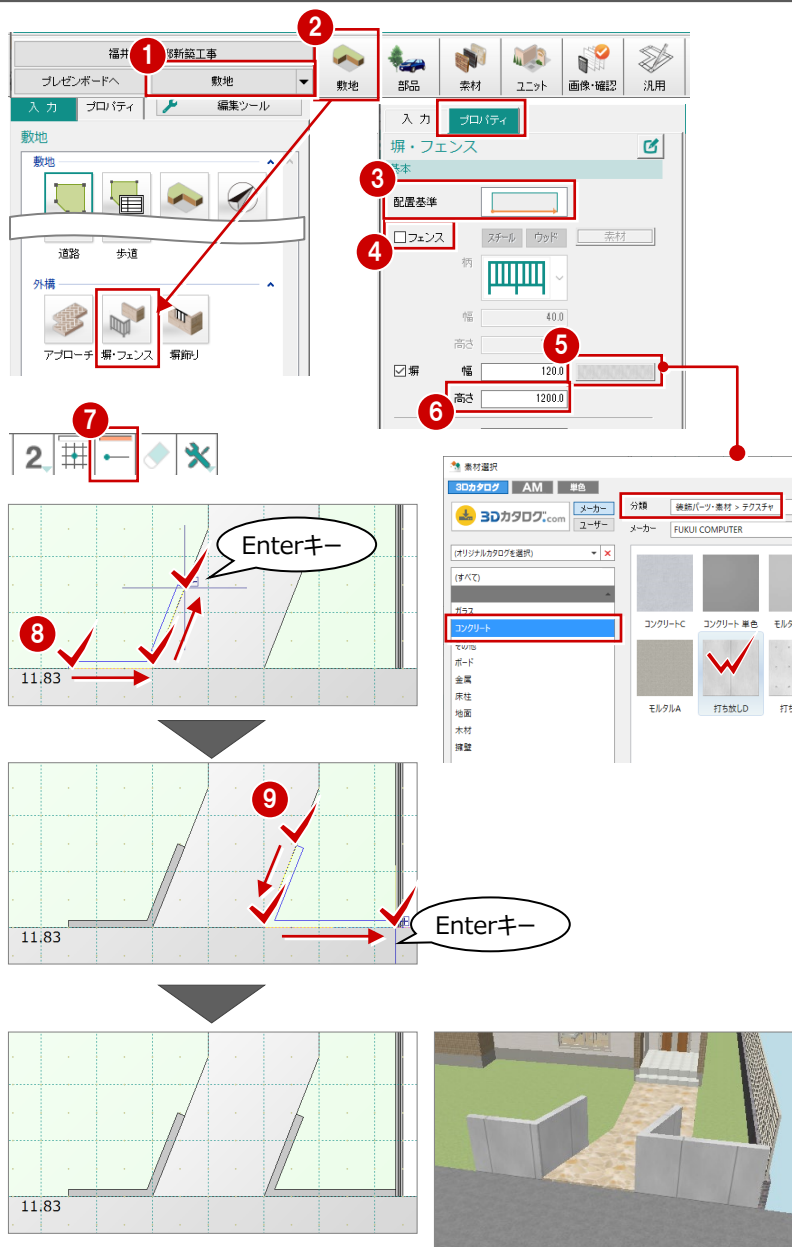
※ プラン作成編で作成したデータ、もしくはサンプルデータ「プラン作成編（完成）.mdlz」を使用します。



1-1 外構や照明部品を入力

門塀を入力する

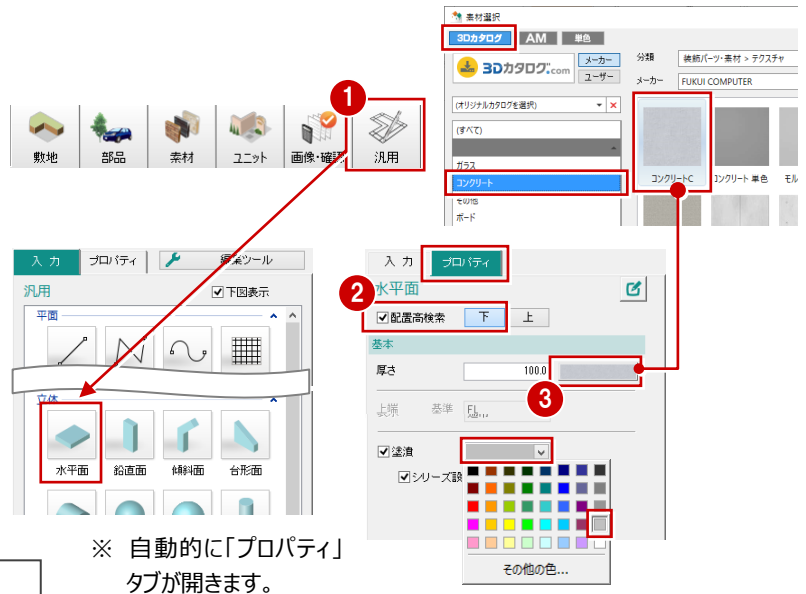
- 敷地を開きます。
- 「敷地」の「塀・フェンス」をクリックします。
- 「プロパティ」タブの「配置基準」を「右面」に変更します。
- 「フェンス」が「OFF」であることを確認します。
- 素材を変更します。
「分類」を「装飾パーツ・素材」>「テクスチャ」、左側のパネルから「コンクリート」を選び、ここでは「打ち放し D」をダブルクリックで選択します。
- 高さを「1200」に変更します。
- 「要素ピック」を ON にします。
- 塀の入力点を順にクリックします。
道路のライン上の任意の点、道路とアプローチの交点、アプローチ上の任意の点を順に指定します。最後に Enter キーを押します。
- 同様に、もう 1 か所入力します。



駐車場を入力する

汎用シンボル（水平面）を使って、駐車スペースを表現してみましょう。

- 1 「汎用」の「水平面」をクリックします。
- 2 「プロパティ」タブの「配置高検索」が ON、「下」が ON であることを確認します。
- 3 水平面の素材と塗潰を変更します。
「分類」を「装飾パーツ・素材＞テクスチャ」、左側のパネルから「コンクリート」を選び、ここでは「打ち放し D」をダブルクリックで選択します
- 4 矩形の範囲をクリックします。



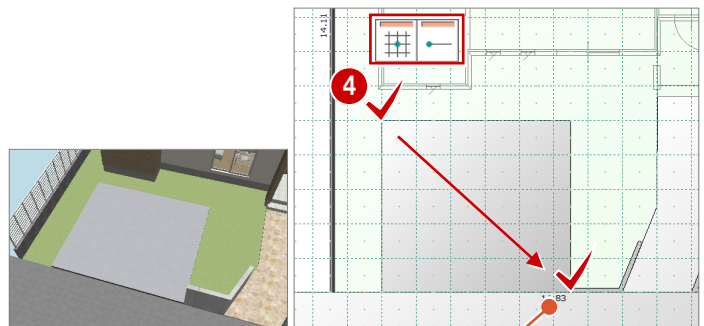
※ 自動的に「プロパティ」タブが開きます。

配置高検索

「下」が ON の場合、検索されるデータは次のとおりです。

検索データ	下端の高さ基準
出窓壁・バルコニー	道・部屋・床面
外構	FL
その他	1階：GL 1階以外：下階軒高

※ 「上」が ON の場合、高さ基準は「天井面」となります。部屋外に入力されたシンボルは軒高の位置に入力されます。

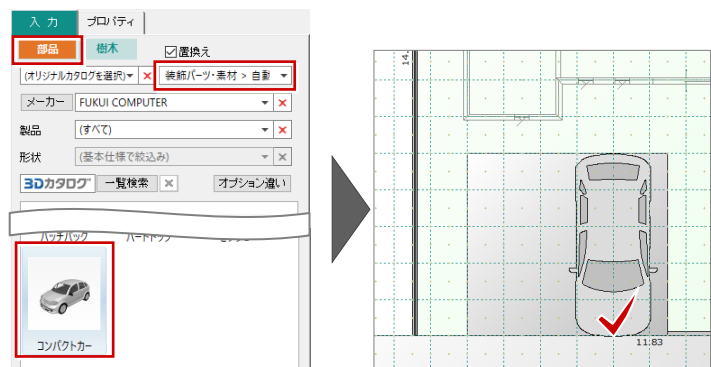


Shiftキーを押しながら、2点目をクリックすると多角形入力になります。

自動車を入力する

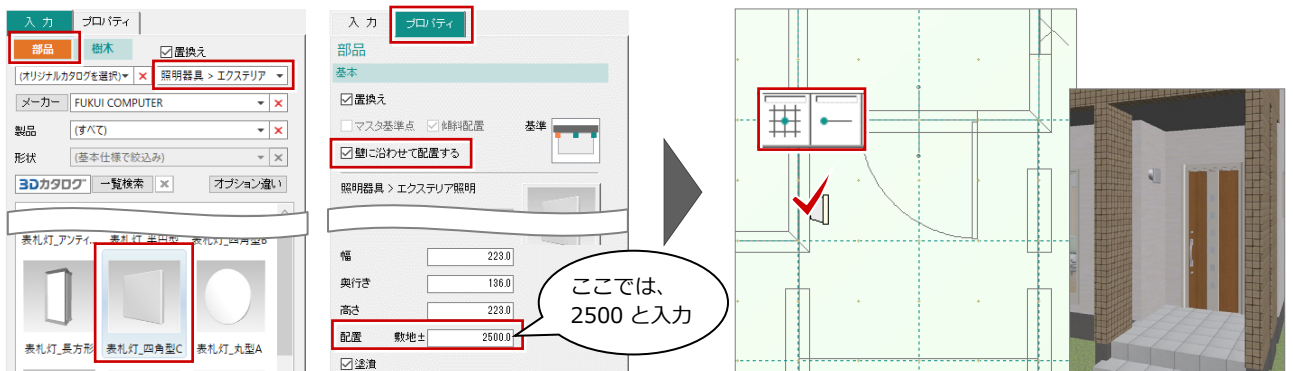
「コンパクトカー」を入力してみましょう。（装飾パーツ・素材－自動車・バイク・自転車－コンパクトカー）

⇒ 部品の入力については、「プラン作成編」P24 参照



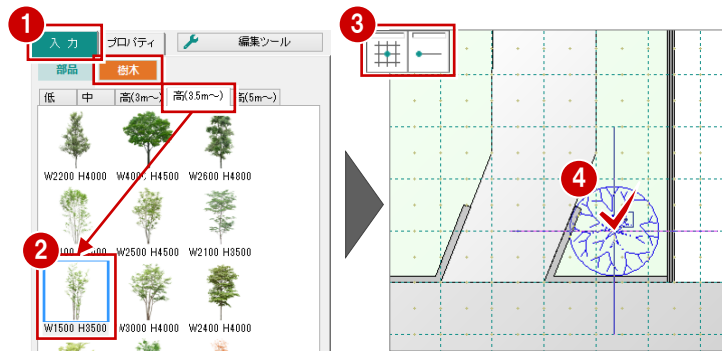
玄関に照明を入力する

「表札灯」を入力しましょう。（照明器具－エクステリア照明－表札灯_四角型 C）

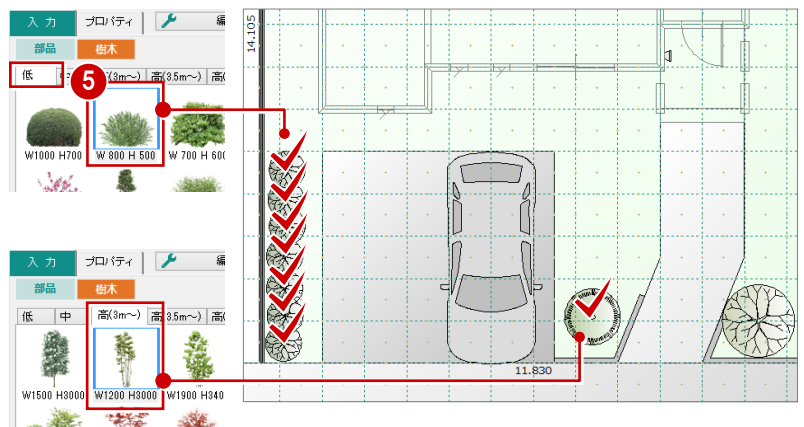


樹木を入力する

- 1 「入力」タブの「樹木」をクリックします。
- 2 「高（3.5m〜）」タブの「W1500 H3500」を選びます。
- 3 「グリッド」「要素ピック」がOFFであることを確認します。
- 4 樹木の配置位置をクリックします。



- 5 同様に残りの樹木を入力します。

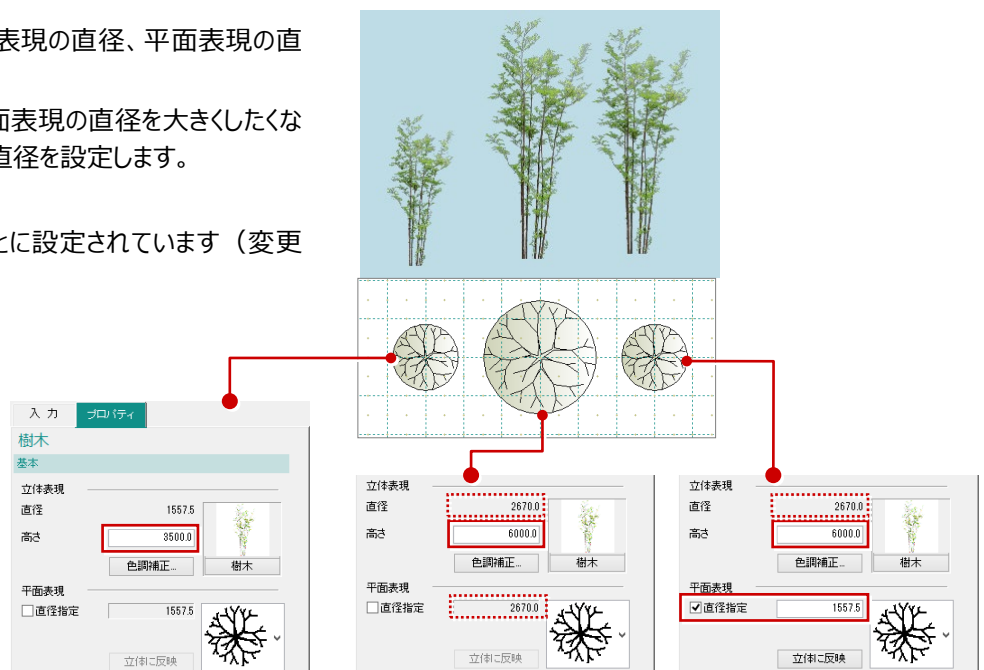


樹木の高さを変更する

樹木の「高さ」を変更すると、立体表現の直径、平面表現の直径が変更されます。

例えば、樹木を高くしたときに、平面表現の直径を大きくしたくないときは、「直径指定」をONにして直径を設定します。

※ 高さとの比率は、樹木ごとに設定されています（変更不可）。



補足

Modelio データを ARCHITREND VR で使用するには

ARCHITREND VR (以降、ATVR) は、バーチャルリアリティ対応のヘッドマウントディスプレイを使って、Modelioでプランニングした建物、室内を確認できるバーチャル空間体感システムです。

ATVRのデータは、Modelioのプランデータから作成できます。



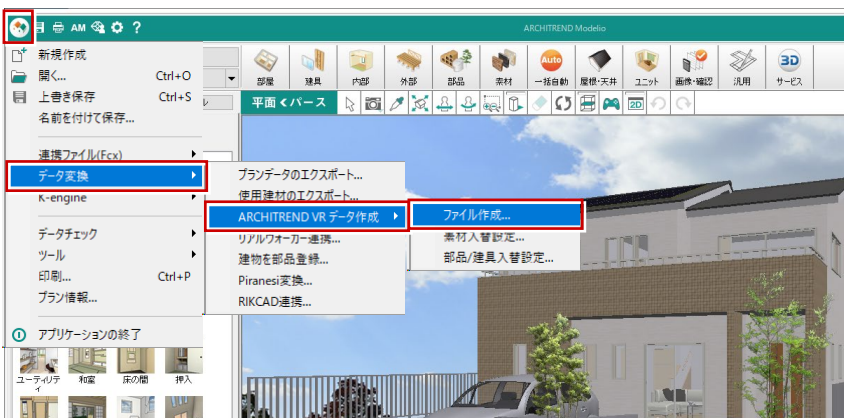
- プランの作成
 - ・視点の設定
 - ・背景・光源の設定
- 部品・建具の入れ替え候補を設定
- 素材の入れ替え候補を設定 (3Dカタログマスタ)
- VRデータの作成

- 外観や室内空間の体感
- ドアやサッシの開き勝手を確認
- 照明ON/OFFで照明の位置や調光イメージを確認
- 朝・昼・夜のシーン切り替え
- 素材の張り替え
- ドアやサッシ、住設機器の入れ替え など

■ VRデータの作成

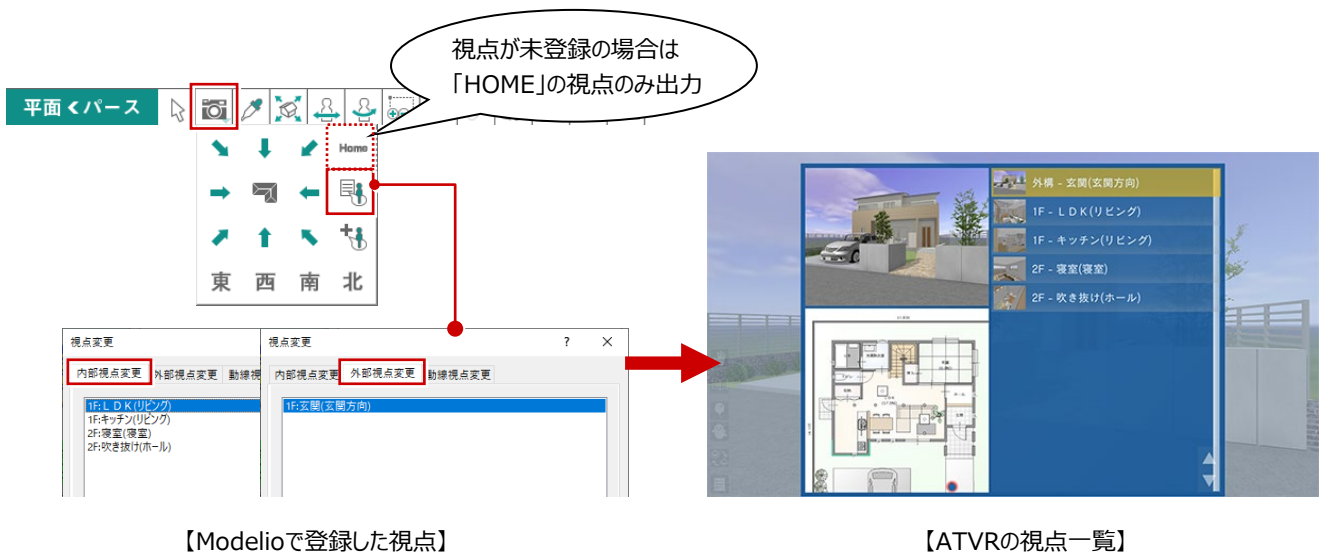
ATVRのデータは、Modelioの「処理メニュー」から「データ変換」の「ARCHITREND VRデータ作成 - ファイル作成」で作成します。

ATVRで素材、部品、建具の入れ替えを行うには、あらかじめModelio側で設定を行ってからATVRデータを作成します。



■ 視点の連携

視点は、Modelioで登録した内部視点・外部視点がATVRの視点一覧に連携します。視点が未登録の場合は、「HOME」の視点のみ出力します。

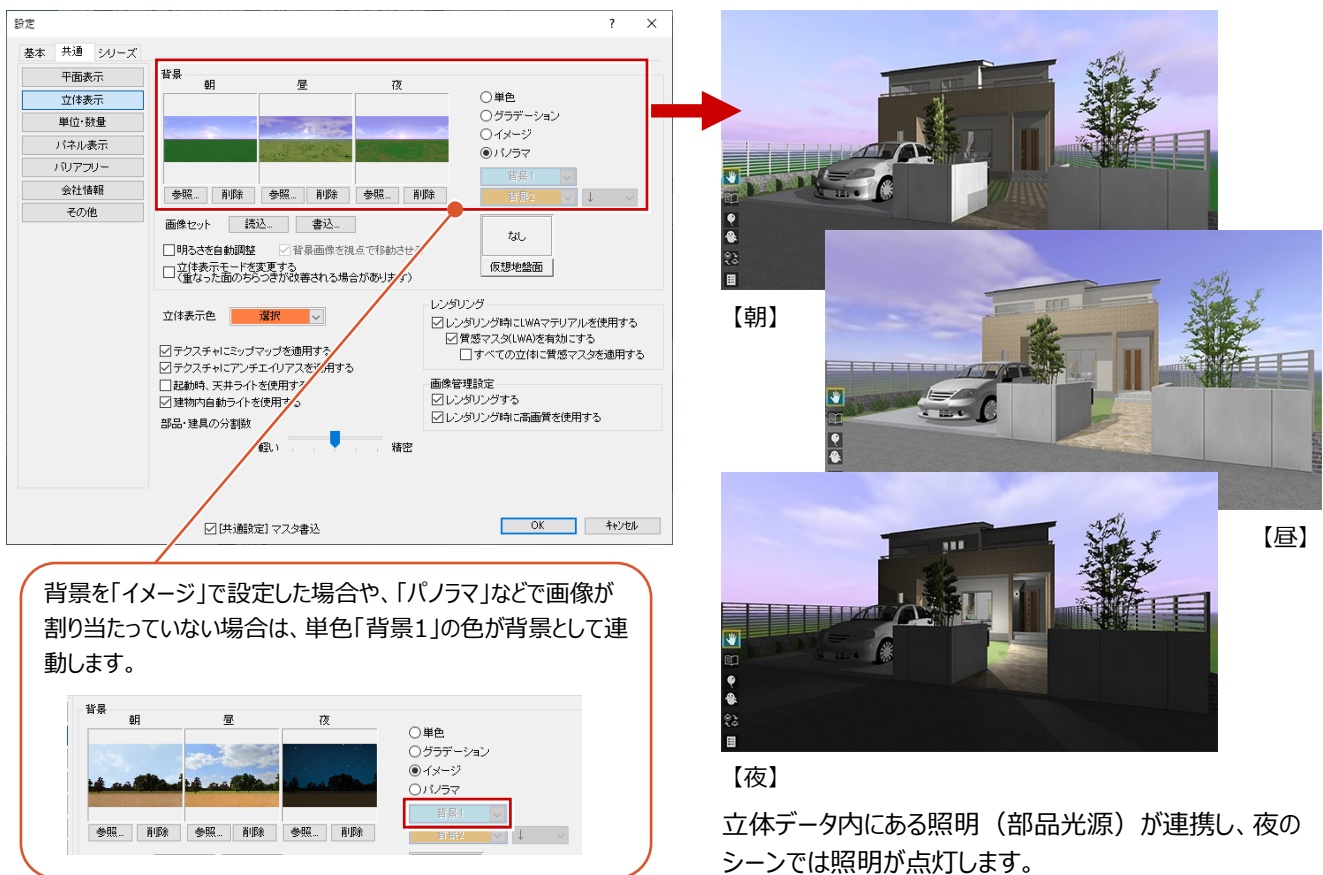


【Modelioで登録した視点】

【ATVRの視点一覧】

■ 背景・光源の連携

Modelioの「共通」タブの「立体表示」で背景を「イメージ」以外に設定している場合は、ATVRの背景（朝・昼・夜）に連携します。



【朝】

【昼】

【夜】

立体データ内にある照明（部品光源）が連携し、夜のシーンでは照明が点灯します。

1-2 背景や影の設定

背景を変更する

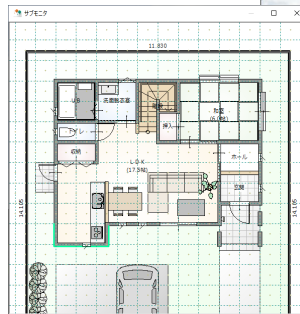
「初期設定」から「共通」タブを選び、「立体表示」をクリックして、「イメージ」に変更します。



立体に影を付ける

パース画面に切り替えて、ツールバーの「影を表示」をONにします。建物に影が作成されるので、パースで確認します。

室内には日が差し込んでいるのを確認できます。



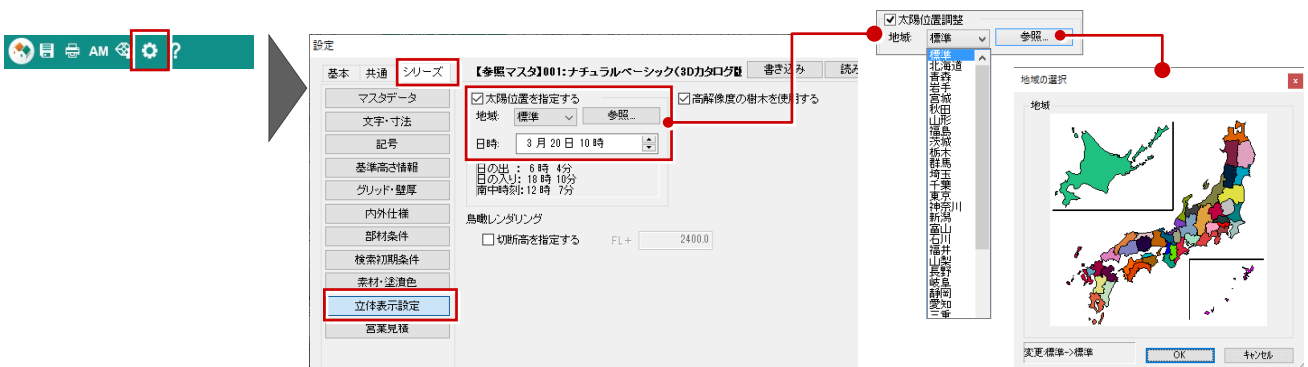
太陽の位置

「影を表示」をONにして影を付けたときの太陽の位置は、「初期設定」にある「シリーズ」タブの「立体表示設定」の「地域」「日時」で、太陽の位置を設定することができます。

※ 「影を表示」がONのとき、「太陽位置調整」をOFFにすることはできません。

※ 「影を表示」は、「夜」のシーンのときには使用できません。⇒ シーンについては、P.9 参照

※ この設定は、レンダリング時の太陽位置の初期値となります。



1-3 視点の設定

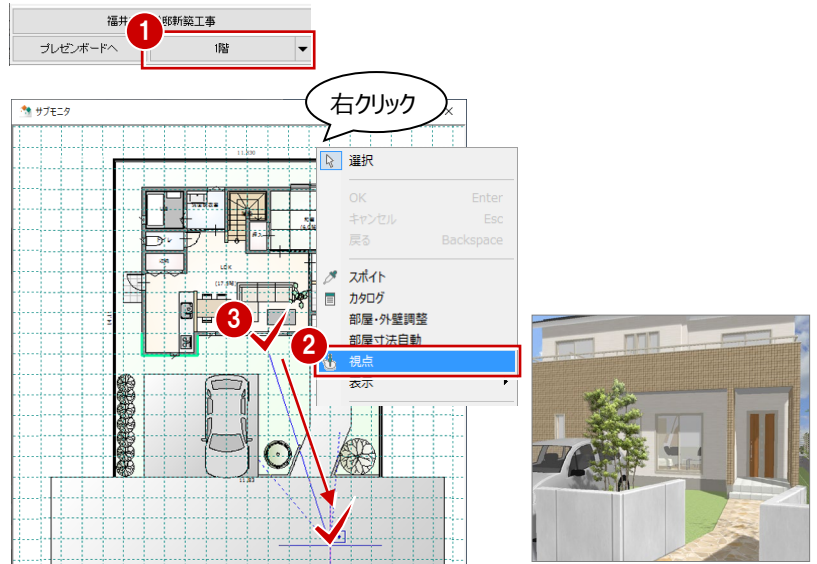
外観パースで使用使用するアングルを決めます。

サブモニタが表示されていない場合は、「モニター表示/非表示」をクリックして、サブモニタに平面を表示します。



外観の視点を設定する

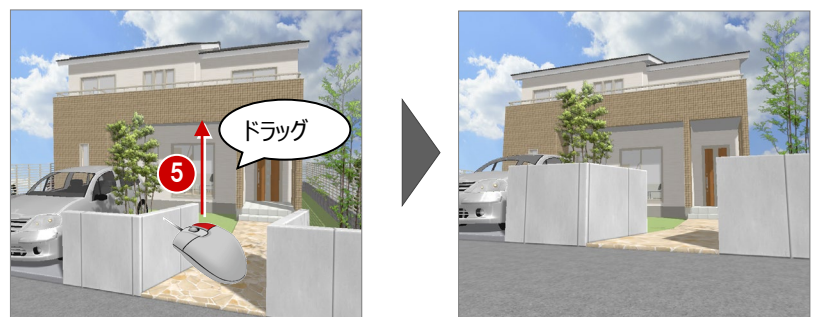
- 1 「1階」を表示します。
- 2 サブモニタで右クリックして、「視点」を選びます。
- 3 注視点、視点位置をクリックします。



- 4 パース画面で右クリックして、「視野角」の「外観向け」を ON にします。



- 5 マウス操作で視点位置を下げ、若干見上げたようなアングルに変更します。
⇒ マウス操作については、「基本操作編」 P.17 参照



- ⑥ パース画面で右クリックして、「あおり補正」をONにします。

※ OFF にするときは、再度同じコマンドをクリックします。



【あおり補正：OFF】



【あおり補正：ON】

- ⑦ マウス操作で視点位置を下げ、若干見上げたようなアングルに変更します。



あおり補正時のマウス操作について

「あおり補正」がONとOFFでは、マウス操作による立体の回転・移動の動きが異なります。

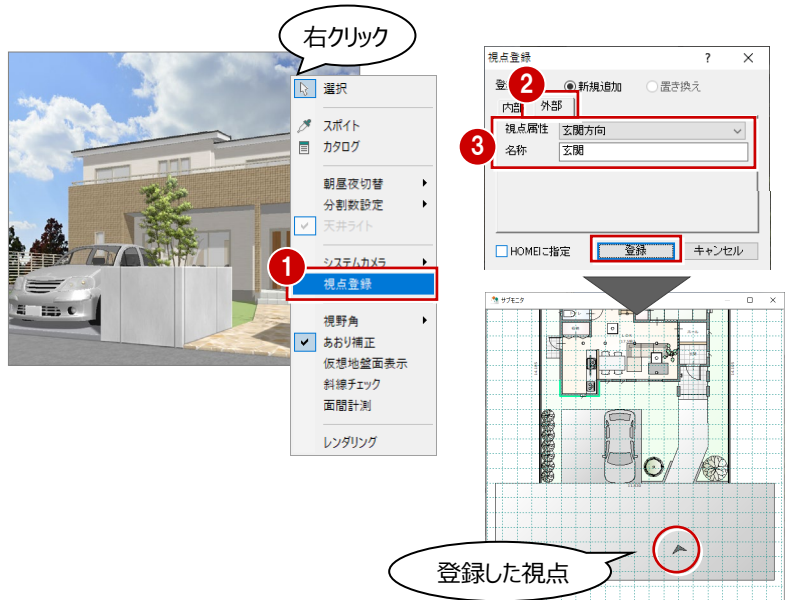
例えば、右ボタンのドラッグによる回転の場合、マウスを下方向へドラッグすると、建物の奥側が上がり、マウスを上方向へドラッグすると、建物の奥側が下がるような動きになります。

視点を登録する

外観パースで使用するアングルを決めます。

- 1 パース画面で右クリックして、「視点登録」を選びます。
- 2 「視点登録」ダイアログの「外部」タブを開きます。
- 3 「視点属性」を「玄関方向」、「名称」を「玄関」と設定して、「登録」をクリックします。

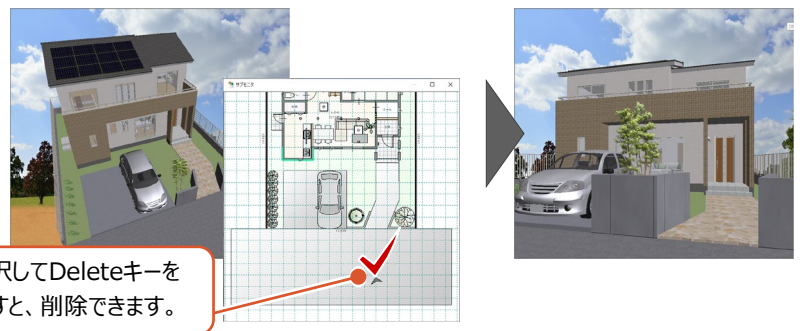
平面に登録した視点が表示されるようになります。



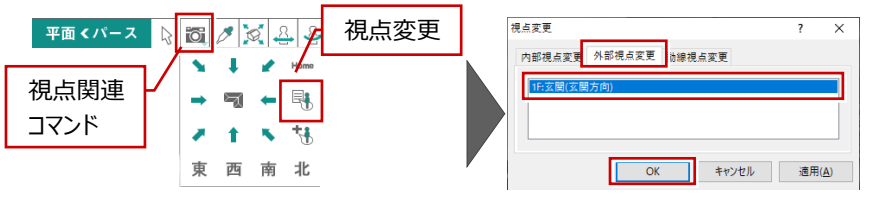
視点を呼び出す

外観の視点を呼び出すには、平面に表示されている視点をクリックします。

登録した視点から視点を変更しても、平面に登録された視点をクリックすると、再度登録した視点でパースを表示することができます。



「視点関連コマンド」の「視点変更」からも登録した視点を呼び出すことができます。

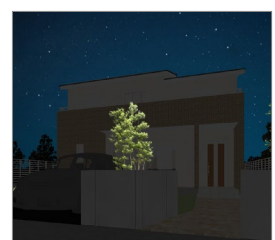
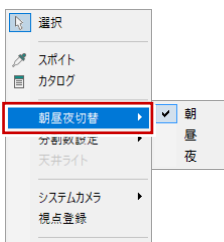
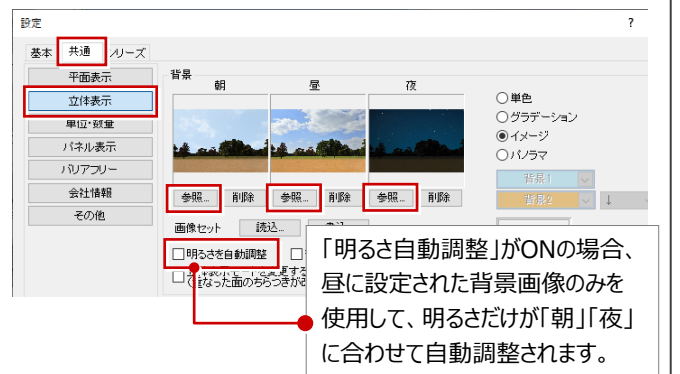


補足

シーン（朝・昼・夜）を切り替える

朝・昼・夜のシーンごとに使用する背景を変更して、パース画面に表示することができます。

- 1 「初期設定」の「共通」タブにある「立体表示」の「朝」「昼」「夜」の「参照」で、背景画像を設定します。
- 2 パース画面のポップアップメニューから「朝昼夜切替」の「朝」「昼」「夜」を選びます。



1-4 レンダリングの実行

外観の画像を作成する

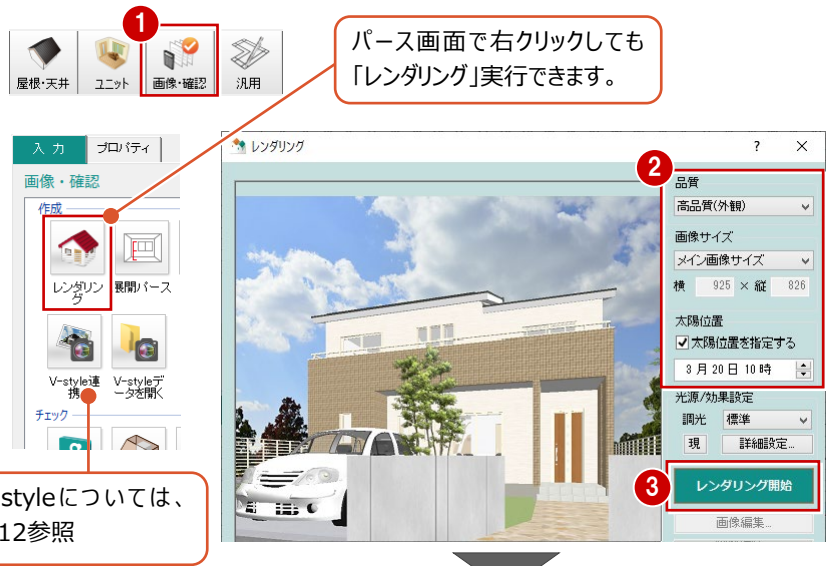
パースのアングルが決まったら、レンダリングを実行して外観パースの画像を作成してみましょう。

① 「画像・確認」の「レンダリング」をクリックします。

② レンダリングの条件を設定します。

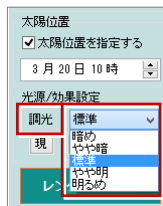
「品質」：高品質（外観）
 「画像サイズ」：メイン画像サイズ
 「太陽位置を指定する」：ON
 「日時」：3月20日10時

③ 「レンダリング開始」をクリックします。
 処理が開始します。



光源の明るさを調整するには

レンダリング時の光源の明るさを調整したい場合は、「レンダリング」ダイアログの「調光」を設定します。「暗め」「やや暗」「標準」「やや明」「明るめ」の中から目的の明るさに切り替えて、レンダリングを実行します。



画像サイズについて

・「メイン画像サイズ」

基本的に現在のメイン画面のサイズをベースにして画像を作成するため、パース画面の表示のまま画像を作成できます。

・その他の画像サイズ（小・中・大・特大・ユーザー指定・パノラマ画像）

画像サイズを決めて作成する場合に使用します。

ただし、指定した画像サイズとパース画面のサイズは異なるため、パース画面の表示状態と同じ作成範囲にはなりません。

両サイドや上下が若干切れたり、余分な範囲まで作成することがあるので注意が必要です。



【メイン画像サイズ（925×826）】 【小（800×600）】

「通常」と「高品質（外観）」の違い

レンダリングの品質には、「通常」「高品質」があり、右図のように作成される画像が異なります。

品質	外観	内観	鳥瞰
通常	○	○	○
高品質（外観）	○	×	×
高品質（内観）	×	○	×
高品質（鳥瞰）	×	×	○



【通常】

全体的に均一な明るさになり、陰影の表現も均一となる。また、処理が速いので、大まかなイメージ確認に向いている。



【高品質】

影になる部分と明るい部分のメリハリが付き、立体感のあるパースを作成できる。処理は「通常」よりも若干長くなる。

画像をトリミングする

レンダリングした画像において、必要な部分だけを切り出してみましょう（トリミング）。

- 1 「レンダリング」ダイアログの「画像編集」をクリックします。
- 2 「トリミング」タブの「トリミング」を ON にします。
- 3 白枠内でドラッグして、範囲を移動します。



- 4 白枠のライン上をドラッグして、範囲を変形します。



- 5 編集が終わったら、「保存して終了」をクリックします。



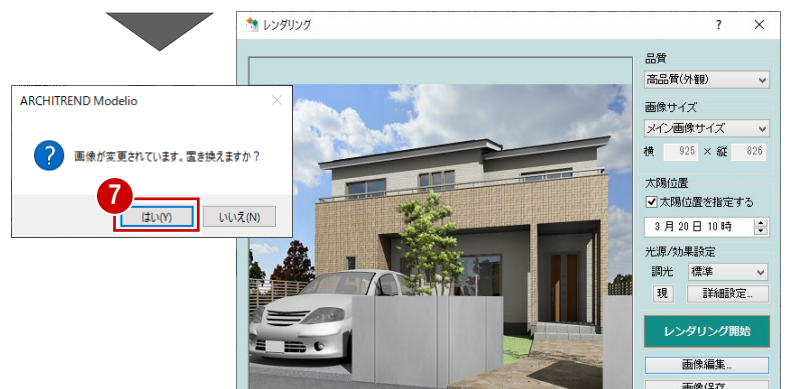
- 6, 7 確認画面で「はい」をクリックします。

「レンダリング」ダイアログにトリミング後の画像が表示されます。



前景部品・明るさ調整

トリミングのほかにも、前景部品の配置、画像の明るさ・コントラスト調整を行うことができます。



画像を保存する

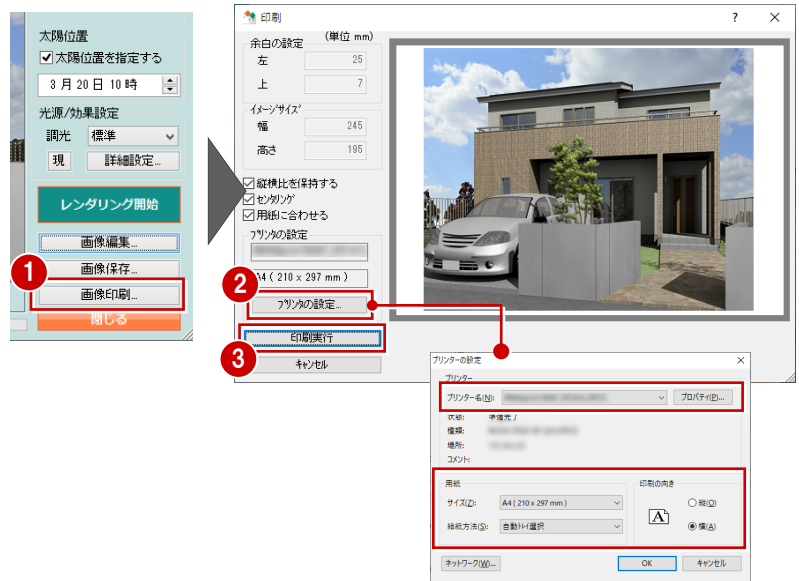
作成した画像を保存します。

- 1 「画像保存」をクリックします。
- 2 ここでは「外観」タブの「玄関方向」をクリックします。
- 3 「OK」をクリックします。



画像を印刷する

- 1 「画像印刷」をクリックします。
- 2 「プリンタの設定」で使用するプリンター名や、用紙のサイズ、印刷の向きなどを確認します。
- 3 「印刷実行」をクリックします。



- 4 印刷が終わったら「閉じる」をクリックします。



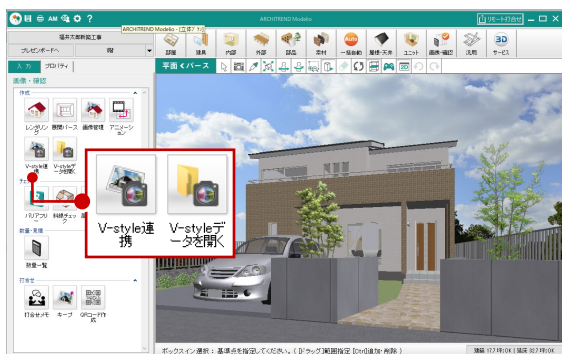
補足

V-style 連携について

「画像・確認」の「V-style連携」から、「ARCHITREND Modelio V-style」に連携して画像を作成することができます。

ARCHITREND Modelio V-styleは、Modelioで作成したモデルの情報（モデル・カメラ・光源情報など）を生かして高品質のレンダリングをおこなえます。素材入替・質感変更等により、プレゼン効果が高い画像を作成することができるオプションプログラムです。

⇒ ARCHITREND Modelio V-styleの操作については、公式ホームページ：[「Modelio V-styleVer2 操作ガイド」](#)参照



【ARCHITREND Modelio V-style】

2

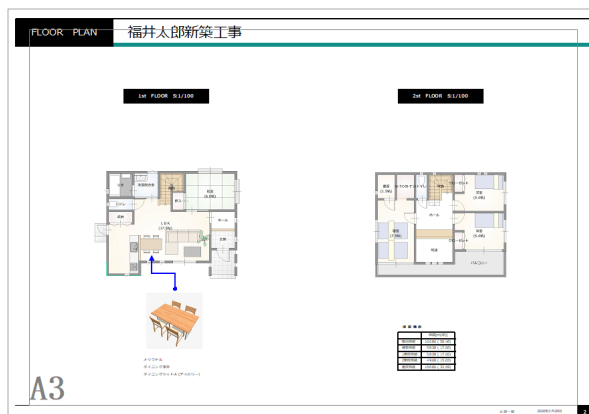
プレゼンボードの作成

完成図

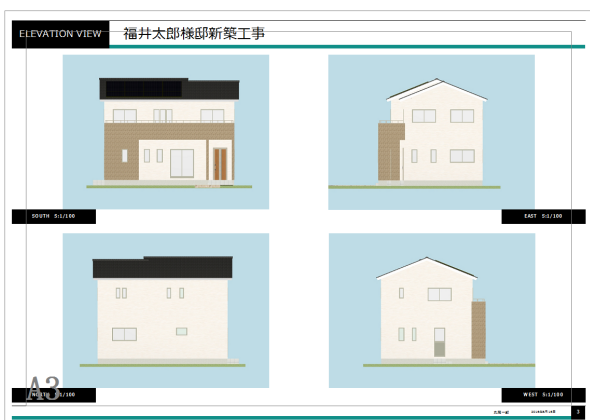
プレゼンボードで使用する平面図や立面図などの画像を作成して、テンプレートを使ってプレゼンボードを作成していきましょう。



【表紙】



【平面図】



【立面パース】



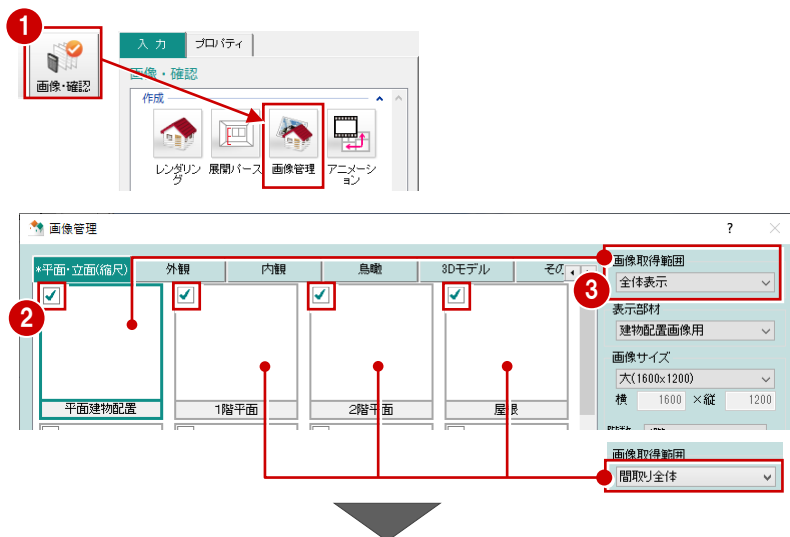
【外観パース】

2-1 画像の準備

ボードで使用する平面や立面パースの画像を作成しましょう。

平面・立面パースの画像を作成する

- 1 「画像・確認」の「画像管理」をクリックします。
- 2 「平面・立面（縮尺）」タブで、自動作成する「平面建物配置」「1階平面」「2階平面」「屋根」をONにします。
- 3 各画像の「画像取得範囲」を確認します。
- 4 続けて、「東面」「西面」「南面」「北面」をONにします。



- 5 各面の「表示方位」で立面パースの方位を確認します。
- 6 ここでは、「立面に寸法を表示する」は OFF にします。
- 7 「自動作成」をクリックします。
画像の自動作成が開始します。
- 8 確認が終了したら、「閉じる」をクリックします。

サムネイル画像をダブルクリックすると画像を確認できます。

※ 表示方位は、「視点関連コマンド」の「東」「西」「南」「北」です。

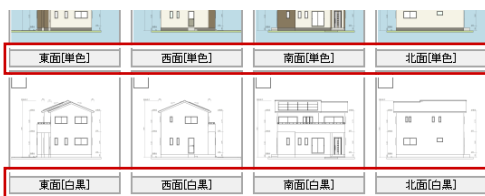
立面パースの画像の品質

「画像管理」では、自動作成する立面パースは、レンダリングされていません。レンダリングした立面パースを作成するときは、「画像・確認」の「レンダリング」を使って、高品質の画像を作成し保存してください。



立面画像の寸法線

「画像管理」で「立面に寸法を表示する」をONにして、表示したい項目をONすると立面画像に寸法線が作成されます。寸法の表示は、通常の立面、立面（単色）、立面（白黒）、立面1～8の画像作成時に設定可能です。

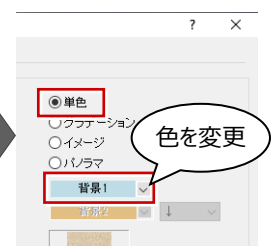


寸法の数値や文字のサイズ、フォントはプログラム固定です。



立面パースの背景色

「画像管理」で自動作成される立面パースの背景色は、「初期設定」の「共通」タブにある「立体表示」の「単色」で設定されている「背景1」の色が使用されます。



2-2 プレゼンボードの新規作成

作成した画像、入力されている建材（建具、素材、部品）をもとに、プレゼンボードを作成してみましょう。

プレゼンボードに切り替える

- 1 「プレゼンボードへ」をクリックします。

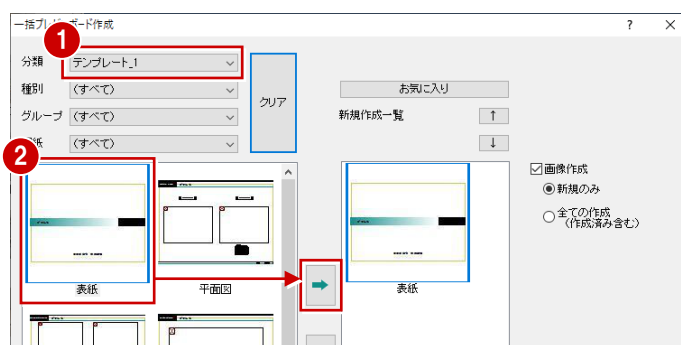
※ 初めてボードを作成するときは、「一括プレゼンボード作成」ダイアログが開きます。



テンプレートを指定する

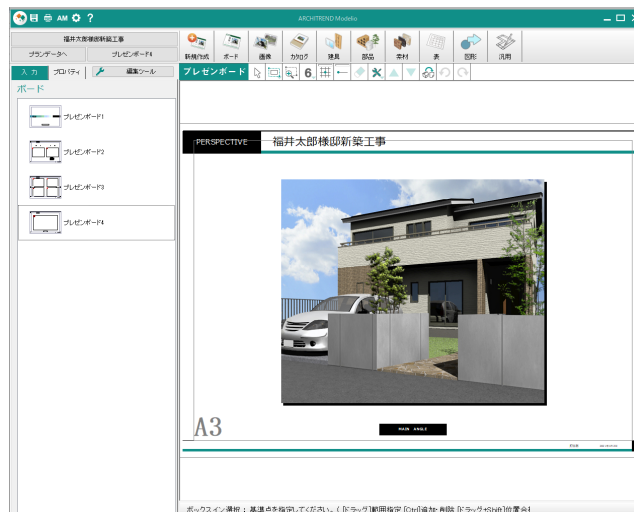
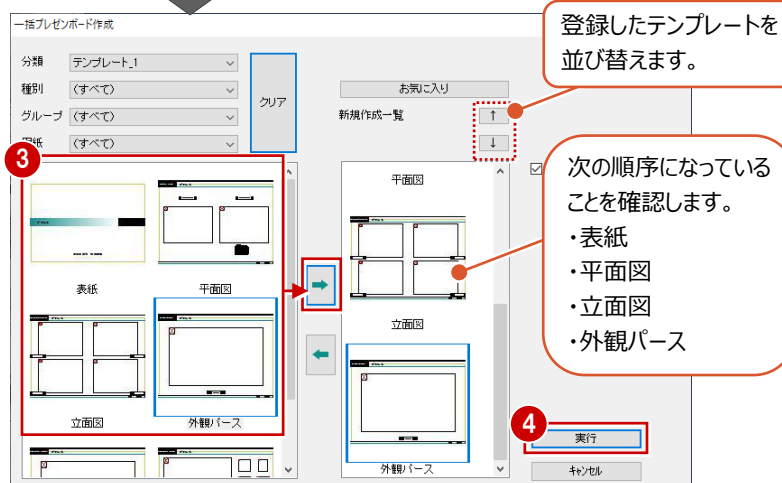
- 1 ここでは、「分類」で「テンプレート_1」を選びます。

- 2 一覧から「表紙」のテンプレートを選び、「→」をクリックして登録します。



- 3 同様に、「平面図」「立面図」「外観パース」を登録します。

- 4 使用するテンプレートをすべてセットしたら、「実行」をクリックします。

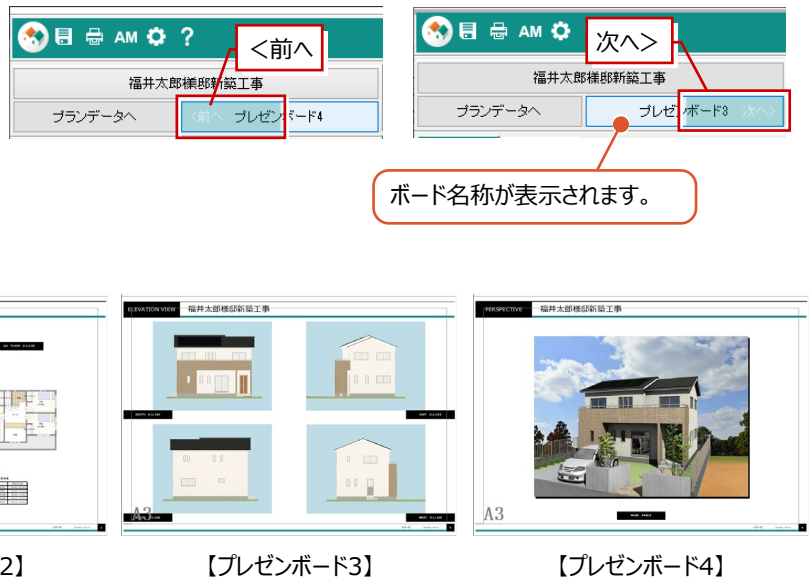


2-3 ボードの確認

自動作成されたボードを確認して、ボードの名称を変更してみましょう。

ボードを確認する

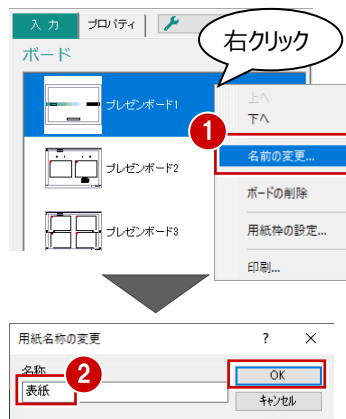
「<前へ」「次へ」をクリック、またはボードの一覧をクリックして面を変更し、ボードを確認しましょう。



ボードの名称を変更する

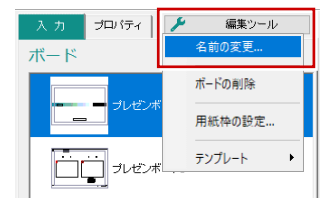
表示しているボードを識別しやすくするため、名称を変更しましょう。

- 1 「プレゼンボード 1」のボードで右クリックして、「名前の変更」を選びます。

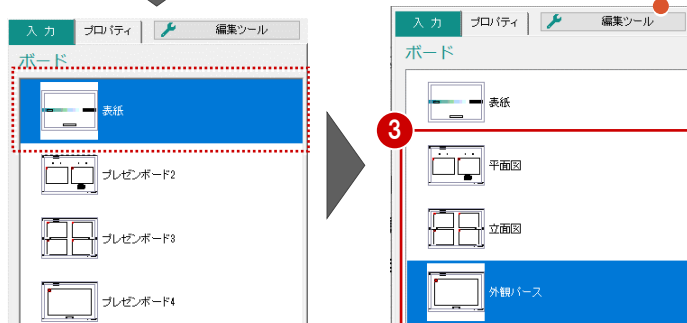


- 2 ここでは名称を「表紙」に変更して、「OK」をクリックします。

「編集ツール」の「名前の変更」でも変更することができます。



- 3 同様にして、残りのボードの名称も変更します。

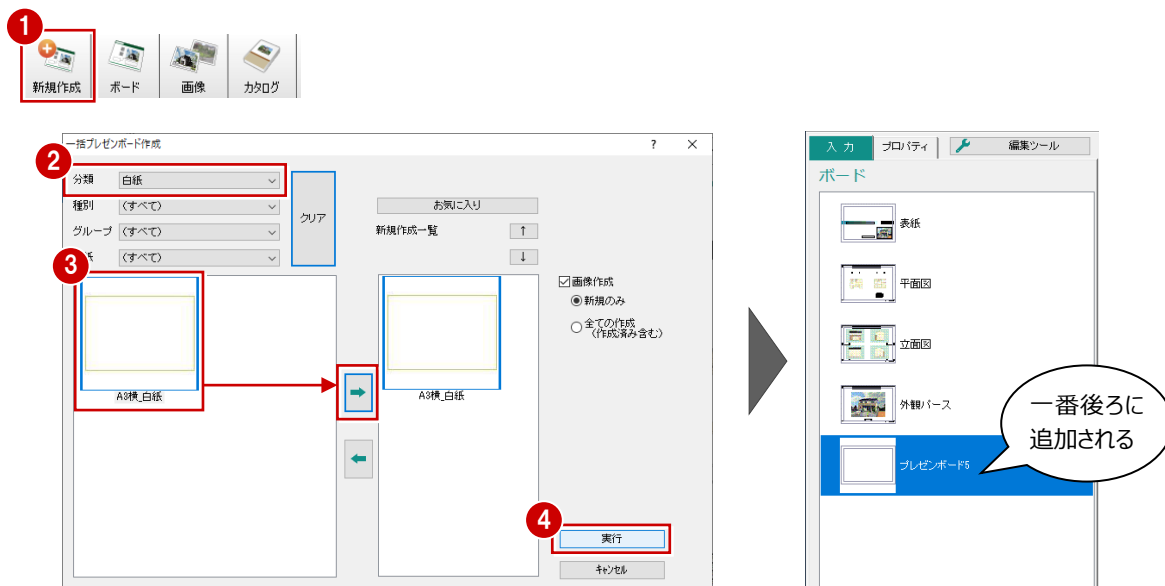


補足 **+**

ボードを追加するには

指定したテンプレートをボードに追加するには、「新規作成」をクリックして追加します。

白紙を追加したい場合は、「分類」を「白紙」にすると、白紙のテンプレートが一覧に追加されます。

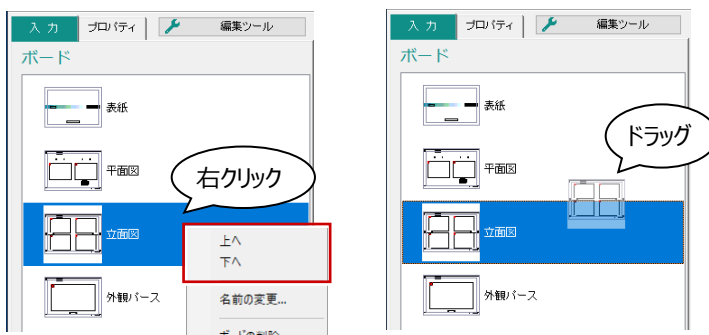


補足 **+**

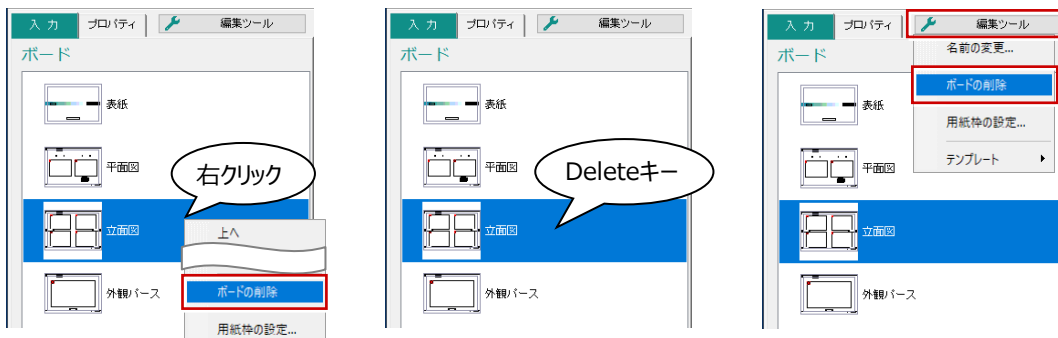
ボードの並び替え・削除

ボードの並び替え・削除については、操作方法がいくつかあるので操作しやすい方法でおこなってください。

【ボードの並び替え】



【ボードの削除】



2-4 プレゼン・カタログ画像の確認

「画像管理」に登録されているプレゼン画像、カタログ画像を配置してみましょう。

プレゼン画像を配置する

表紙に、「画像管理」に登録されている画像を配置してみましょう。

- 1 「表紙」のボードを開きます。
- 2 「画像」の「プレゼン画像」をクリックします。
- 3 「プレゼン画像」ダイアログで「外観」タブの「玄関方向」の画像を選び、「OK」をクリックします。
- 4 「プロパティ」タブで画像サイズ、枠の有無などを設定します。
サイズ：「横」ON、「120」
枠を表示する：ON
- 5 画像の配置位置をクリックします。

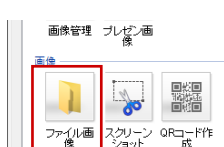


- 6 「キャンセル」をクリックします。



任意の画像ファイルを配置するには

画像ファイル（PNG、BMP、JPEG）を配置するには、「ファイル画像」を使用します。



部品のカタログ画像を配置する

平面図にダイニングテーブルのカタログ画像を配置します。

① 「ボード」をクリックして、「平面図」を開きます。



② 「カタログ」をクリックします。



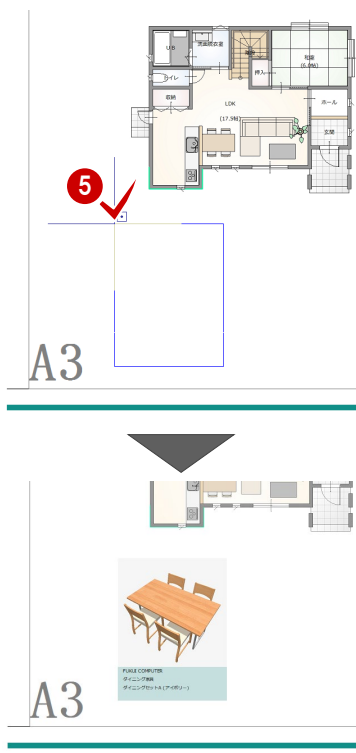
③ 「部品」を ON にします。

④ パネルから配置するカタログ画像を選びます。

⑤ 画像の配置位置をクリックします。



パネルには、プランに入力されている部品のみが表示されます。



プランに入力されていないカタログ画像

その他のカタログ画像は、「建具」「部品」「素材」で配置します。



また、プロパティのサムネイル画像をクリックして、他のカタログ画像に入れ替えることもできます。



2-5 カタログ画像の編集

カタログ画像のサイズや、カタログ項目の内容、文字の大きさを変更してみましょう。

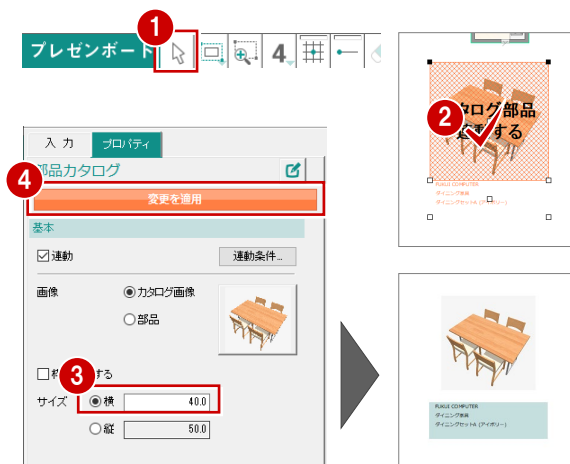
画像サイズを変更する

① 「対象データ選択」をクリックします。

② カタログの画像部分をクリックします。

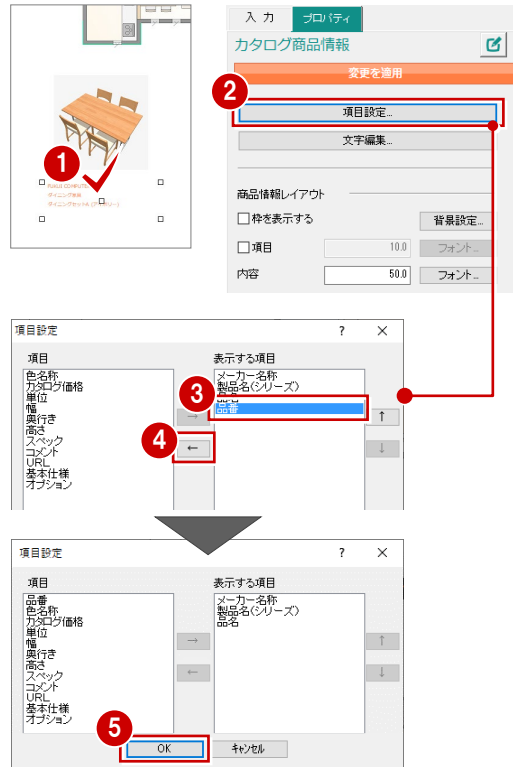
③ 「プロパティ」の「サイズ：横」を、ここでは「40」に変更します。

④ 「変更を適用」をクリックします。



表示する項目を確認する

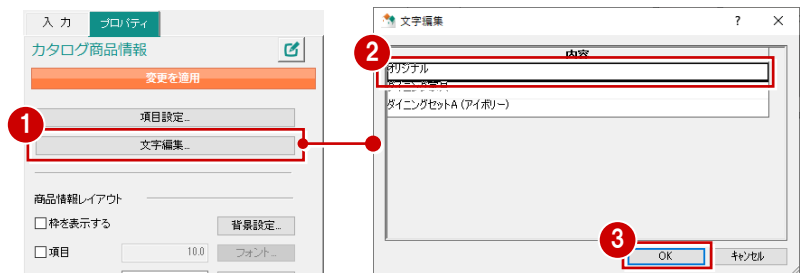
- 1 カタログの項目部分をクリックします。
- 2 「プロパティ」の「項目設定」をクリックします。
- 3, 4 ここでは、「品番」は表示しない項目にするため、「品番」を選択して「←」を選択します。
- 5 「OK」をクリックします。



カタログの項目内容を変更する

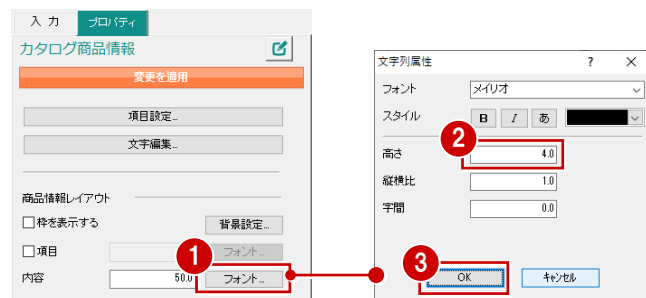
ここでは、メーカー名を変更してみましょう。

- 1 「文字編集」をクリックします。
- 2 変更する内容を入力します。
ここでは「オリジナル」と入力します。
- 3 「OK」をクリックします。



フォントサイズを変更する

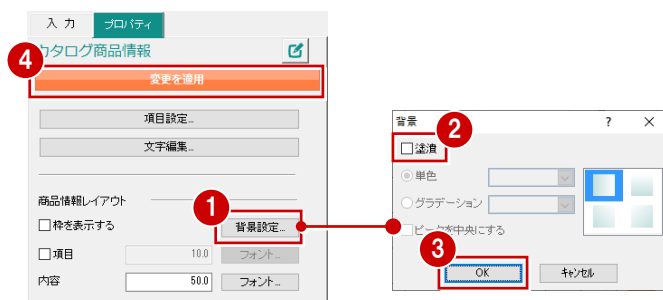
- 1 「フォント」をクリックします。
- 2 「高さ」を「4」に変更します。
- 3 「OK」をクリックします。



背景色を変更する

ここでは、項目の背景色を無しに変更してみましょう。

- 1 「背景設定」をクリックします。
- 2 「塗潰」をOFFにします。
- 3 「OK」をクリックします。
- 4 「変更を適用」をクリックして、設定を反映します。

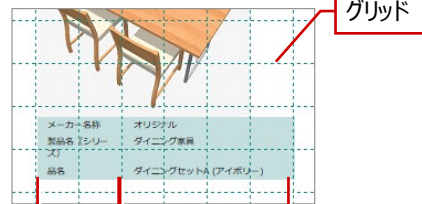
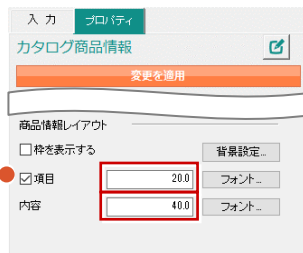


補足 +

項目・内容を示す幅について

「項目」「内容」のボックスでは、それぞれ表示する幅（mm）を設定します。この幅を超える場合は自動的に折り返します。
 ※ グリッドを表示すると、設定されている幅を確認できます。

項目名を表示する場合は「ON」にします。



【項目の幅】 (20.0mm) 【内容の幅】 (40.0mm)

補足 +

グリッド表示とグリッド間隔

設定箇所	
グリッドの表示・非表示	<p>一時的に表示する場合、画面で右クリックして「グリッド表示」を選びます。 常時表示したいときは、「初期設定」にある「その他」の「グリッドを表示する」をONにします。</p>
グリッドの間隔	<p>「ボード」の「編集ツール」をクリックして、「用紙枠の設定」を選び、「用紙枠設定」ダイアログの「グリッド」タブで設定します。</p>

2-6 ボードの編集

データを移動、またはカギ線や矢印など図形を入力してボードを仕上げましょう。

データを移動する

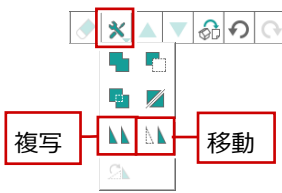
ここでは、カタログ画像を移動してみましょう。

- 1 カタログ画像をクリックします。
- 2 右クリックして、「編集」メニューから「移動」を選びます。
- 3 移動の基準点をクリックします。
- 4 移動先をクリックします。



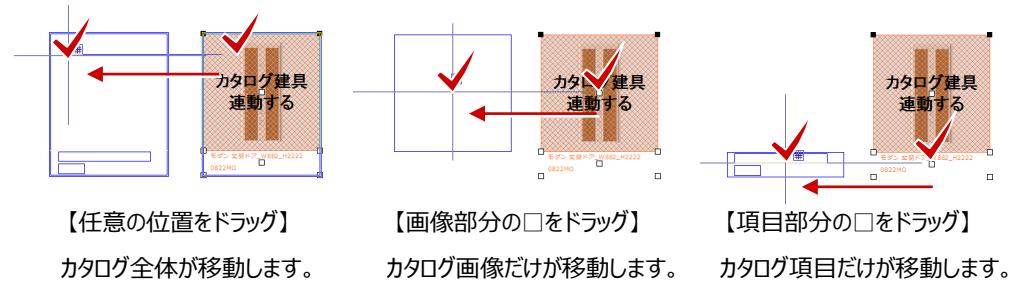
ツールバーでの操作

「編集コマンド選択」メニューでも移動、複写をおこなうことができます。



マウス操作でカタログ画像を移動する場合

指定する位置によって、移動するデータが異なります。

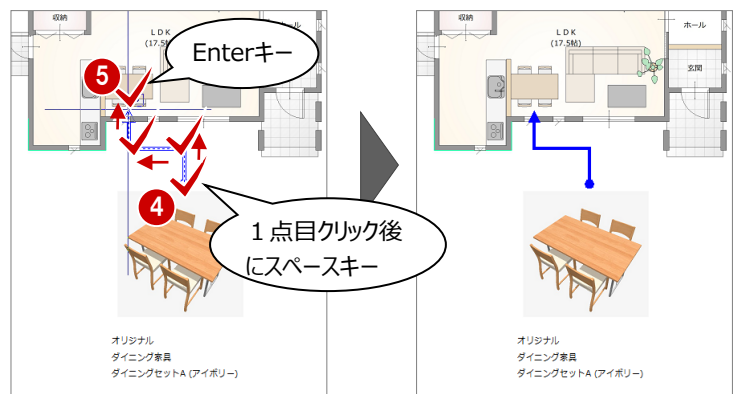
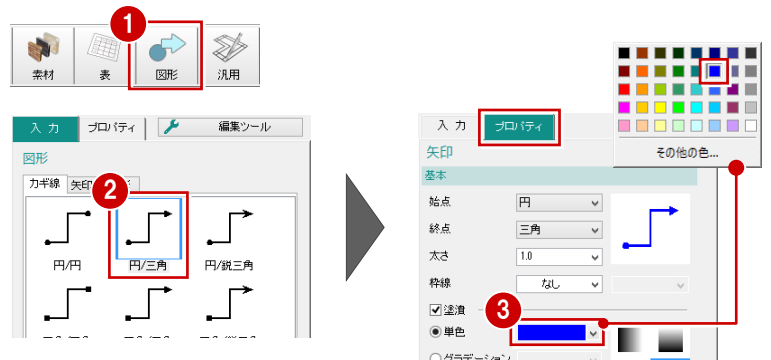


カギ線を入力する

ここでは、ダイニング家具のカタログ画像と平面画像をカギ線で結んでみましょう。

- 1 「図形」をクリックします。
- 2 ここでは「円/三角」を選びます。
- 3 「プロパティ」タブの「単色」で塗り潰し色を変更します。
- 4 カギ線の入力点を順にクリックします。
- 5 最後に Enter キーを押します。

1 点目をクリックした後に、キーボードのスペースキーを押すとドラフタ機能が有効になり、水平・垂直方向に固定して次の入力点を指定することができます。



棟面積表などを配置するには

「表」をクリックし、配置する表を選んで配置します。



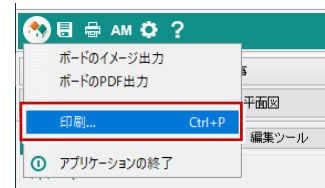
2-7 ボードの印刷

作成したページを印刷してみましょう。

- 1 共通ツールバーの「印刷」をクリックします。



「処理メニュー」の「印刷」でも開くことができます。



- 2 「印刷」ダイアログの「プリンタ名」で、プリンタを設定します。
- 3 「プロパティ」をクリックして、用紙サイズ、向きを設定します。
- 4 「印刷範囲」で「すべて」がONであることを確認します。
- 5 「OK」をクリックします。
印刷が開始されます。



